

花と緑の銀行だより

220号 2021.8



にゅうぜんフラワーロード 2021.4月 (写真：入善支店)

目

次

- ・花と緑の提言 花と緑があふれる入善町を目指して (入善支店) 2
- ・活動事例 立山町の緑化推進活動について (立山支店) 3
- ・技術講座 富山で育つ宿根草の組み合わせとデザイン
アムソニア・タベルナエモンタナ (職藝学院 渡邉美保子) 4
- ・緑づくりコーナー 庭木に利用する樹種の特徴と管理 モッコク (樹木医 西村正史) 5
- ・事業紹介 「コンテナガーデンコンテスト」について (緑花推進部) 6
- ・この人あり 「野ぎくの会」の花づくり活動 (小矢部支店 松沢地方銀行 河原義清) 7
- ・報告・お知らせ 8月～12月の主なイベントなど 7



花と緑があふれる入善町を目指して

花と緑の銀行 入善支店長

入善町長 笹島 春人

富山県東部に位置する入善町は、北アルプスから流れ出る急流、黒部川によって形成された、黒部川扇状地の中心に位置する、人口約24,000人の町であります。



写真1 入善町全景

黒部川は、かつて黒部四十八ヵ瀬と云われた暴れ川で、たびたび氾濫を繰り返し、人々を苦しめた反面、この水を利用した流水客土と、圃場整備の実施により、現在では、県内有数の穀倉地帯となっております。また、全国名水百選に指定された黒部川湧水群を有しており、量も豊富で清らかな水が、町のいたるところで取水される、名水の町であります。

このような環境の特性を有している入善町は、緑のあふれる地域となっており、永年にわたり水田裏作として栽培され全国的な生産量を誇っている『チューリップ』を町花とし、また、かつて黒部川扇状地に広く分布し、現在も下山河岸段丘に群生している『こぶし』を町木に指定しております。



写真2 にゅうぜんフラワーロード 2021.4月

毎年4月に開催しております「にゅうぜんフラワーロード」について、昨年度は新型コロナウイルス感染症拡大を防止するため、やむを得ず中止としましたが、令和3年度は感染対策を徹底することで開催することができました。北アルプスの雄大な山々と約300万本のチューリップとの美しい景観を見に、県内外から多くの方々にご来場をいただいたところであります。

現在、花と緑の銀行入善支店には、10地方銀行、70名の頭取やグリーンキーパーが緑化推進活動に取り組んでおります。

花と緑の銀行入善支店としましては、町内の公園、公民館、小中学校、地域道路花壇等の約85カ所にプラグ苗、春苗、秋苗、チューリップ球根や冬苗の配布を行っております。

また、各地方銀行では現在コロナ禍の状況ではありますが、感染対策を図りながら花苗の配布時期にあわせ、花壇づくり教室、寄せ植え教室や山野草展示会の開催など、独自の活動を展開しております。

その一例として、礪波山地方銀行では地域活動として毎年、富山県花のまちづくりコンクール（一般花壇の部）に参加し上位入賞を目指しております。



写真3 礪波山地方銀行の活動

これからも豊かな風土を生かし、花と緑をとおし、住民同士の交流や子供たちの情操教育、そして、ふるさとへの愛着につながる活動と花いっぱい町づくりに邁進していきたいと考えております。

結びに、頭取・グリーンキーパー及び町民の皆様方には、地域の緑化推進活動に一層のご支援とご協力を賜りますよう、お願い申し上げます。

立山町の緑化推進活動について

花と緑の銀行 立山支店

立山町農林課 大崎 喜孝

立山町では、平成元年4月29日が「みどりの日」（現在は5月4日）として制定されたことを機に、この日に「立山町みどりの憲章」を制定し、「みどり維新の町」を宣言しました。

以来、本年度で33年目を迎え、これまで水と緑を守る活動や環境保全に町を挙げて取り組んできました。

宣言を記念して役場の正面広場に設置された3本の立山杉を用いたモニュメントは、老朽化による倒壊の恐れのため平成27年にやむなく撤去しましたが、その後、記念碑の隣で無花粉杉「立山森の輝き」の植樹を子どもたちと一緒にいき、将来へ自然豊かな町を受け継いでいく思いを新たにしています。

現在、花と緑の銀行立山支店には、13地区の地方銀行があり、頭取13名・グリーンキーパー60名の合計73名が各地区において様々な緑化活動に取り組んでいます。

地区の公民館をはじめ、公園や地方鉄道駅舎周辺の花壇・プランターなど、地域花壇の植栽管理に加え、地元小学校の児童等と一緒に植栽活動をしたり、花の管理を指導したりするなど、地域を美しく彩るとともに緑化意識の向上に貢献しています。



写真1 地域花壇での活動
前沢中央公園（左上）
新瀬戸（右上）
寺田駅（左下）

平成28年度からは、おもてなしフラワー事業により、立山町中心部の玄関口となる五百石駅前を花々でお出迎えするため、立山町おもてなしフラワー協議会を立ち上げ、駅前花壇で地元保育園の園児たちを交えて植栽活動を行っています。

また、平成29年度からは立山黒部アルペンルートへ向かう観光客の立ち寄り場となる立山あるペン村

の県道沿い花壇においても、立山地区花の協議会が同事業に取り組み、春の山開きに向けて秋植えチューリップ等の植栽活動を地域の方々の手で実施されています。令和2年度で事業期間は満了となりましたが、今後も町へ訪れる方々を花々で温かくおもてなしできるよう、植栽管理を継続していきます。

昨年以降、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、活動時には密を避けるように気をつけなければならない、子どもたちを交えた大人数での活動ができなくなるなど、これまで通りの活動の実施が難しい状況が続いているところではありますが、「心に緑」を合言葉に住民の心を一つにして、花と緑があふれる美しい町づくりに向けて、一層の緑化推進活動に取り組んでいます。



写真2 おもてなしフラワー事業による活動
立山あるペン村の県道沿い花壇での球根植栽（上）
五百石駅前花壇での園児らによる植栽（下）

富山で育つ宿根草の組み合わせとデザイン

～ 38 アムソニア・タベルナエモンタナ ～

職藝学院

教授 渡 邊 美保子

アムソニア・タベルナエモンタナは北米原産の長命な宿根草です。日本に自生しているチョウジソウと同じ仲間です。チョウジソウは、富山県で絶滅したとされていましたが、2019年に53年ぶりに旧利賀村で発見されたとのこと。アムソニア・タベルナエモンタナはチョウジソウに比べると草丈が高く、花も葉も大きく、たくさんの小花が集団で咲きます。5月に星の形をした淡いブルーの花が咲き、草丈は90cm程度、1年ごとに茎の本数が増え株立ちになります(写真1)。11月には葉がレモン色に変わるので、開花から秋の黄葉まで長く楽しめる宿根草です。



写真1 アムソニア・タベルナエモンタナの花。5月下旬。葉は秋に美しいレモン色に変わる。

アムソニアの新芽は、4月初旬になると地面から突き出てきます。アスパラガスが出てきたのかと思うくらい、おいしそうな姿になります。4月中旬になると、細長い葉は茎にピタリとくっつきながら伸び始め、4月下旬になると、先端の葉が重なり合って抹茶色にそそり立ってきます。この時すでに葉に守られながらつぼみたちも成長しているのですが、真上から顔を近づけないと見ることはできません。しばらくすると、葉に守られたつぼみたちの一つが、重なりあった細長い葉をかきわけて、ひょっこり飛び出し外の世界を偵察し始めます(写真2)。一つ目の勇気のある花が大丈夫の合図を出しているのでしょうか、次々と流れる滝のように咲き始めます(写真3)。



写真2 裏側に毛のある細長い葉の隙間から1つめの花が咲き出す。5月初旬。



写真3 5月初旬から次々と開花。やがて、花茎は立ち上がり、星型の花が空中を舞う。

星型の淡い青色の花に茶色のシミができればじめると、花弁がしわしわに乾いてちぢんできます。花弁が落ちるとその下に2本の紫色のツノのような形の実ができます。実は1日ごとに長く伸び、緑色に変わってゆきます(写真4)。やがて、どんどん伸びてぶら下がり、9月中旬には茶色になって地面に届くほどの長さになり、種がはじけます(写真5)。



写真4 Vの形の実。長さ19cm。6月下旬。



写真5 実が熟して種が飛び出した後。11月中旬。

アムソニア・タベルナエモンタナは、日当たりを好みますが、乾燥を嫌いますので西日が当たらない所に植栽すると良いでしょう。草丈が高くなるとともに、実ができると茎が下がってきて横に広がるので、花壇の後方に植栽することをおすすめします。実の重みで茎が倒れてきたら、株の外側の茎だけ根元から切ると広がりを抑えることができます。切り口から白い液が出るので、肌の弱い方は触れないように気をつけましょう。

庭木に利用する樹種の特徴と管理

～ モッコク ～

日本樹木医会富山県支部

樹木医 西村 正 史

2021年5月頃、移植したモッコクが枯れるかもしれないとの相談がありました。モッコクの移植はやや難しいと言われているので、そうかもしれないとの思いを持ちながら6月に関係者の方と一緒に現地へ見に行きました。その結果、新芽が発生していたので枯れる心配はないことがわかり、安堵しました。

そこで、今回はモッコクを紹介します。

1 特徴

モッコクは、ツバキ科モッコク属の常緑広葉樹です（写真1）。日本では千葉県以西の本州沿岸部、四国、九州、南西諸島に分布し、外国では朝鮮半島南部、台湾、中国を経て東南アジアからインドに至る暖地の海岸近くに分布しています。暑さには強いが、寒さには弱いので、県内での植栽は平野部に限定されています。

放任しても樹形が整えやすいこと、樹齢を経るに従って風格が出ることから、「庭木の王」とされています。高さが5～15mにもなる大きな木なので、狭い庭ではなく、より広い庭での植栽に適しています。

常緑なので一年中綺麗な葉を楽しむことができ、初夏には白い花を咲かせ（写真1）、秋には赤い実がなるすぐれものです。耐陰性があり日陰でも育つ丈夫な木です。

2 維持管理

春になると新しい枝が前年の枝の先端から数本まとまって発生し、6～7月頃になると密生してくるので、風通しを良くするため、この時期に新しい枝を2～3本残してその他の枝はすべて元から切りとります。

残した枝が長くて葉が多ければ葉を2～3枚残

して切ります。秋になっても密生しているようであれば、同じ管理をします。モッコクの成長は緩慢であるので、この管理を間違えれば樹形の変形や樹勢の衰退に直結しますので、専門業者さんに依頼された方がよいと思います。

よく発生する病害虫はハマキムシとカイガラムシです。前者は幼虫が葉を数枚綴り合わせてその中で葉肉を食害します。多発することは少ないようですが、美観が損なわれます。後者はカイガラムシが口を植物に突き刺して吸汁するので、多発すると枝が枯れる心配があります。カイガラムシが多発すると二次的にすす病が発生し葉の表面が黒くなるので著しく美観を損なうことになります。両者とも浸透移行性殺虫剤を散布して対応してください。

今回相談のあったモッコクは、移植のため2017年秋に根回しをされ、その翌年に移植することにしていましたが、発根が少なかったので1年遅らせて、2019年4月に移植されました。

2021年の春になると旧葉の落下が始まり、5月に入ると著しくなり、新芽の発生も見られず、枯れるのではないかと心配されました。ところが、2021年6月2日の時点では新葉が樹冠全体に発生していました（写真2）。

これは、移植後の年数が2年以内のため発根量がまだ十分ではなく、旧葉の落下が早まるとともに新芽の発生が遅くなり、その結果として「枯れたのではないかと心配されたのではないかと」思います。

今回の事例から、移植は数年以上かけて慎重に根回しすることの大切さが示唆されました。



写真2 枯れると心配されたモッコク
2021.6.2



写真1 富山県中央植物園内のモッコク
左：全景 右：今年発生した枝と花 2021.7.13

「コンテナガーデンコンテスト」について

花と緑の銀行 緑花推進部

緑花推進部から「コンテナガーデンコンテスト」について紹介します。この事業は、地域緑化の指導者として活動していただいている、各地方銀行の頭取・グリーンキーパーの方々の、日頃の活動成果を発表する機会として、平成12年度より「花と緑の冬のフェスティバル」や「花とみどり・ふれあいフェア」の開催に合わせて実施しています。

事業の流れは以下のとおりです。

- ①各支店や地方銀行単位で出展について取りまとめ、支店経由で申請書を提出
- ②本店において申請された内容を確認後、作品の制作に係る経費について上限を設けて助成
- ③助成決定後、作品の制作を開始し、展示開始日にあわせて会場へ搬入
- ④約10日間程度の展示期間中に審査を行い、優秀作品はフェア開会式で表彰
- ⑤展示期間終了後、作品を各地方銀行で展示

作品の規格は、一辺が1mの正方形内に収まり、高さは1.5m以内であれば、器の形状や数量は問わないこととなっています。

昨年度は、7支店12団体より申請していただき、審査の結果、以下の団体が受賞されました。

【大 賞】 射水支店小杉地方銀行
「里山（太閤山）の早春」

【優秀賞】 砺波支店東野尻地方銀行
「となみ野の春を彩る」

【佳 作】 南砺支店城端地方銀行
「散居村」

【佳 作】 氷見支店余川地方銀行
「希望 明るい明日が来る」

【佳 作】 高岡支店立野地方銀行
「エール（かがり火）」

出展されたすべての作品は、富山市婦中町「フューチャーシティ ファボーレ」で、令和3年2月19日から28日の10日間展示され、多くの県民の方々に、日頃の頭取・グリーンキーパーとしての活動の成果を披露する、絶好の機会となりました。

また、冬期間は、各地方銀行においても活動が閑散となり、疎遠になりがちな時期でもあります。コンテストに向けた作品の制作を通して、まもなく訪れる春の花の時期に向けた準備ができたのではないかと思います。

コンテストは、今年度も実施することとしておりますので、頭取・グリーンキーパーの方々には、ぜひこの機会を活用され、これまで地域花壇等で培ってこられた技術を、思う存分発揮していただきたいと思います。たくさんの申請をお待ちしております。

（コンテストの詳細については、銀行本店または各支店担当者までお問い合わせ下さい）

終わりに、花と緑の銀行では、県民が花と緑と交流を深めながら、元気な富山県をつくるため、「花と緑が輝く元気とやまの創造」を目標として、県民が主役の花と緑の県づくりを進めてまいります。



「野ぎくの会」の花づくり活動

花と緑の銀行 小矢部支店

松沢地方銀行 頭取 河原義清

本花壇は平成4年から現在に至るまで約29年間の活動をしている。花好きの仲間が集まり地元の公民館周辺の花づくりに取り組んできた。

平成6年には地域交流の拠点施設として「クロスランドおやべ」が建設され、県内外からの来訪者のために癒しの緑の空間を作ろうと、女性だけで「野ぎくの会」を立ち上げた。現在では男性や地域の団体にも働きかけ、活動を続けている。花壇はクロスランドタワーから砺波平野と一緒に全景が楽しめる。市内の散策コースで花壇延長およそ400mにおよぶ距離を花を見ながら散策することができる。年間16,000本の花苗を植え、会員や地域の方々と一緒に力を合わせて花壇の管理をしている。

花壇のデザインは個々の思いが反映され、ニーズに合った花壇づくりと自由な雰囲気を心掛けている。その年の話題を花壇のデザインに取り入れ、見る楽しみを大切にしている。商業施設の誘致などによって県外からの観光客が当花壇を訪れ、交流の輪が広がっている。

この地域だけでなく、ほかの地方銀行も「会員の高齢化」が浮き彫りになっている。若い人の参加が少なく、後継者（グリーンキーパー）の育成が困難だと感じている。花や緑に触れる機会を増やし花づくり活動を知ってもらい、親子、孫まで参加する三世代の交流の場として活動が広がればよいと考えている。

昨年度、「野ぎくの会」が手掛ける花壇が県花のまちづくりコンクール（花の道部門）にて最優秀賞を受賞した。長年続けてきた当花壇が周りの人から評価され、最優秀賞という価値ある賞をいただくことができた。最初は女性だけで取り組んでいた花づくり団体だったが、今では男性も含め地域の団体にも参加が広がった。

本活動をしていくうえで気を付けてきたことは、昨年からの猛威を振るう新型コロナウイルス対策があげられる。対策として密集、密閉、密接の「三

密」を避け、苗の移植、植え込み作業に注意を払った。もちろん、作業中はマスクを着用し感染対策を心掛けた。花を植え、第三者に見てもらうことが目標ではなく、植える作業から安全や健康を第一に作業をする。水分の補給や機械の取り扱いなどに気を付ける必要がある。耕起・畝立てなどの機械関係は男性が行い、植栽、除草は全員で行うようにし、適材適所で花壇の管理に努めている。

花づくり以外で地域づくりのための活動として、福祉事業、地区の各種団体と高齢者を対象とした「いきいきサロン」交流、小中学生・保育園児との交流がある。花苗が余れば地域の企業に譲り、地域の花いっぱい運動に取り組んでいる。



写真1 おやベクロスランドタワー前「野ぎくの会」の花の道

お知らせコーナー（8月～12月の主なイベント）

富山県花と緑の祭典2021 “第49回花と緑の大会”を開催します。

- ・日時 令和3年10月13日（水） 13：30～16：00
- ・場所 富山県民会館ホール
- ・内容

- （1）花と緑の功労者表彰
- （2）富山県花と緑のコンクール入賞者表彰
- （3）花と緑の講演会

演題 「心と体にやさしい花と緑の力（仮）」

講師 千葉大学大学院園芸学研究科 准教授 岩崎 寛



第48回大会 2020.10.14

富山県中央植物園

- 夜間開園「夜の熱帯植物探検」 8月20日(金)・21日(土) 18:30~21:00
- 特別展「オックスフォード大学附属植物園400周年記念展(仮)」 9月10日(金)~10月13日(水)
- 第29回TOYAMA植物フォーラム「オックスフォード大学附属植物園関連」
10月3日(日) 13:30~16:00
- 第15回秋のラン展 11月21日(日)~23日(火・祝)
- クリスマスフェア 12月3日(金)~5日(日)
- 花と緑のコンクール入賞作品展 12月10日(金)~26日(日)
(詳細はHPをご覧ください。お問い合わせは富山県中央植物園へ。参加には入園料が必要です。)

県民公園 頼成の森

- 木の実を使った工作教室 9月26日(日) 9:30~12:00 定員:15名 参加費:500円
- きのご狩りと観察会 10月10日(日) 9:30~13:00 定員:30名 参加費:400円
- 守り人と歩く頼成の森 10月24日(日) 10:00~12:00 定員なし、参加料無料
- 頼成の森“感謝の集い” 11月14日(日) 9:30~14:00
・ 林内散策、抽選会、きのご汁など 定員なし 参加費無料
・ リースづくり教室 定員:25名 参加費:1,000円
- 千支づくり工作教室 12月5日(日) 9:30~12:00 定員:15名 参加費:500円
- ミニ門松づくり教室 12月19日(日) 9:30~12:00 定員:20名 参加費:1,000円
(詳細はHPをご覧ください。申込み・お問い合わせは県民公園 頼成の森へ)



- 中央植物園オックスフォード庭園
7月9日開園
 - ・ 2018年の中央植物園とオックスフォード大学植物園・樹木園との友好提携を記念して造成されました。
 - ・ 全長21m×奥行4mのボーダーガーデンは、宿根草を主体に60種類あまりの草花が植えられています。
 - ・ イギリス由来の5種類のサクラを植栽。ヨーロッパクロマツ「トルキンツリー」の記念植樹。ドレイストーンウォーリングというイギリスの伝統的な技法を用いた石積み。など
- 総面積 約2,600㎡

※ お願い！！

- 新型コロナウイルス感染拡大防止のため、各行事の中止や内容の変更を行う場合があります。ご理解の上、各行事の詳細はその都度、担当部署へお問合せ下さい。
- 頭取・グリーンキーパーの皆さまには、新型コロナウイルス感染症対策に努め、花壇管理など花と緑の指導にあたっていただきますようお願いいたします。
- ① 3密の回避(密閉空間、密集場所、密接場所)！
- ② マスクの着用、手洗い・手指消毒の徹底！
- ③ 換気の徹底！



編集発行 公益財団法人 花と緑の銀行
〒939-2713 富山市婦中町上轡田42
TEL 076-466-2425 FAX 076-465-5923
<https://www.bgtym.org/fgbank/>

富山県中央植物園
〒939-2713 富山市婦中町上轡田42
TEL 076-466-4187 FAX 076-465-5923
<https://www.bgtym.org/>

県民公園頼成の森
〒939-1431 砺波市頼成156
TEL 0763-37-1540 FAX 0763-37-1450
<https://www.bgtym.org/ranjyounomori/>



花と緑の銀行だより 220号

発行日 令和3年(2021年)8月
再生紙を使用しています。